

科目名		建築実務講座 (測量・施工管理演習)			
担当教員		仁多見 透		実務授業の有無	有
対象学科		建築士専攻科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築分野において設計・施工管理の職種ではレベル・トランシットを使った業務は常である。 特に現場管理において測量機械を使って作業することが出来なければ即戦力とはならない。 本授業では、各種測量機械の基本的な操作技術を習得し、現場で対応出来る事を目的とする。			
学習目標 (到達目標)		施工管理者としての測量機器の取り扱いができることを目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布プリント			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	1、 測量機械の説明		測量機械の使用目的を学ぶ。 レベルとトランシットの使用目的など。		
2	2、 水準測量 (レベル機械の取り扱いについて)		レベルの使用方法を学ぶ。 レベル機械の三脚への取付、水平の確保など。		
3	3、 水準測量 (実演)		実際にレベル機械を据え付ける作業を行う。		
4	4、 応用測量 (トランシット機械の取り扱いについて)		トランシットの使用方法を学ぶ。 トランシット機械の三脚への取付、水平の確保、基準点への設置など		
5	5、 応用測量 (トランシットの据え付けを実演)		実際にトランシット機械を据え付ける作業を行う。		
6	6、 応用測量 (トランシットの角度操作)		トランシットの使用方法を学ぶ。 角度 (90°) の操作実演を行う。		
7	7、 応用測量 (トランシットの角度操作の試験)		同上の実演試験 測量機械の据え付け手順、正確性、スピードを評価対象とする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
理解度	出席率	取組姿勢		現場作業において測量機械は必須の機器である。	
40 %	30 %	30 %	%	取扱い程度はしっかりと覚えてほしい。	
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築施工管理者として16年			